

二〇一四年度国文学会彙報

二〇一四年度国文学会活動状況

△新入生歓迎会▽ 学生部会主催

二〇一四年四月五日(土) 新島会館

△国文学会総会・研究発表会▽

二〇一四年六月二五日(日) 寒梅館二階二〇三教室

・総会

・研究発表

『宇治拾遺物語』における勝者と敗者

—— 第一八六話をめぐって ——

本学大学院博士課程前期課程 倉島実里

坂口安吾「土の中からの話」論

—— 古典受容のあり方をめぐって ——

本学大学院博士課程前期課程 牛窓愛子

橋爪松園(一八七一 明治四年)『英語字類』の位置づけ

本学大学院博士課程後期課程 丸山健一郎

教室で読まれる『いころ』

—— 『私』は『明治の精神』を批判する ——

洛星中学・高等学校教諭 篠原武志

△講演会▽ 院生部会主催

二〇一四年二月二五日(土) 扶桑館一〇四教室

外部テキストと源氏物語の関わり

—— 作品誕生の起点を探る ——

荒木浩(国際日本文化研究センター教授・

総合研究大学院大学教授)

△国文遊歩▽ 学生部会主催

第一回 二〇一四年六月二九日(日)

宇治平等院・源氏物語ミュージアム

第二回 二〇一四年十一月九日(日)

興福寺・東大寺・春日大社

第三回 二〇一五年二月八日(日)

八坂神社・青蓮院・建仁寺

△国文合宿▽ 学生部会主催

二〇一四年八月二八日(木) ～二九日(金)

琵琶湖リトリートセンター

院生部会主催

二〇一五年三月二三日(月)～二四日(火)

伊勢 日の出旅館

△ゼミ相談会▽ 学生部会主催

二〇一四年二月一日(月)・三日(水)

徳照館四階・学生共同利用室

△同志社国文学▽

第八一号〈国文学科(専攻)創立六〇周年・国文学会設立五〇周

記念論文集〉二〇一四年十一月二〇日発行

収載論文三七編

第八二号 二〇一五年三月二〇日発行

収載論文十二編、授業実践一編、資料紹介二編

△国文学会会報▽ 第四二号 二〇一五年三月二〇日発行

二〇一四年度博士論文題目

「天狗説話」の研究 久留島 元

明治後期における紀行文の「進歩」とジャンルの自立性

——小島鳥水の理論と実践を中心に—— 熊谷 昭宏

戦後・三島由紀夫文学の生成

——その思想性と文学的実践について—— 田中 裕也

二〇一四年度修士論文題目

『源氏物語』の場面と歌 風岡 むつみ

『宇治拾遺物語』の〈史実〉と〈虚構〉

——第一一四話・第一二八話・第一八六話をめぐって——

倉島 実里

覚一本『平家物語』「名のり」考 城阪 早紀

宮澤賢治における生命への眼差しと「修羅」意識

——〈流れるもの〉〈揺らぐもの〉をめぐって——

植田 彩郁

戦中・戦後における坂口安吾の古典利用

——「閑山」から「土の中からの話」まで——

牛窓 愛子

武田泰淳作品における「精神病理学」批判の研究

——「幻聴」及び「富士」の主題の連続性をめぐって——

藤原 崇雅

遠藤周作文学における医療の問題

——『海と毒薬』『悲しみの歌』を中心に—— 劉 野

『万葉集』の多音節訓仮名の研究 吉岡 真由美

二〇一四年度卒業論文題目

『古事記』における常世と常世国

榊原周磨

『古事記』における桃の持つ能力が本文に与える影響について

大八木孝明

古事記中に登場するオホゲツヒメはどうか分類できるか

西野歩

『嘆きの霧』に関する考察

三輪咲

『日本霊異記』中巻第三縁における「母」と「慈母」の差異

給田悠

『古今和歌集』における紀友則

鳥袋今乃

『長谷雄草紙』「反魂の秘術」の特質

北井雄也

『源氏物語』における『竹取物語』の引用

田中淳

——玉鬘を中心に——

『紅葉賀』巻の役割について

山田浩司

——源氏と葵の上の関係性から——

『源氏物語』における女人出家

松井美奈

——浮舟と女三の宮を中心に——

『源氏物語』における「白」

吉村彩香

『源氏物語』における女房の役割

余田智恵美

——光源氏物語を中心に——

『源氏物語』の紫の上と明石の君

笠井 栞

——若菜上下巻を中心に——

『枕草子』の「月」の表現

——「あかし」と「おもしろし」に着目して——

中谷 恵里子

『更級日記』における阿弥陀仏の夢の希望と絶望

杉江 祐里佳

『今昔物語集』に見る日本仏教の独自性

——巻第九「震旦冀州人子、食鶏卵得現報語」を中心に——

石野 みゆき

『今昔物語集』における天狗説話

——巻第二十第十一をめぐって——

嶋中 佳輝

『今昔物語集』巻二十七の霊格

今様「心の澄むもの」考

今様往生説話の研究

——遊女をめぐる奇跡——

長岡 昇汰

日本における蛇婚入譚の特色

説話と物語を支える原理としてのウケヒ

佐伯 紫保

——『宇治拾遺物語』第三話を例に——

村上 泰規

西行和歌における鳥類

佐藤 公一

『発心集』の文学性をめぐる一考察

——巻五の三「母、女を妬み、手の指地に成る事」

における「蛇」を中心に—— 関岡 史織

『十六夜日記』における五感表現 橋本 南美

『平家物語』覚一本及び延慶本における平敦盛の形見 寺本 知代

中世軍記物語における〈天狗〉〈天魔〉〈鬼〉の諸相

橋谷 真広

堅牢地神考 小森 一輝

能「道成寺」の女性像 上田 周美

——罪の意識に注目して——

『御伽草子集』「浦島太郎」を結末から考える 新田 啓佳

『御伽草子』「鉢かづき」考 明 珍美 咲

御伽草子の結末と改変 花井 美奈

——「横笛草紙」を中心に——

近江八景の変遷 多々納 奈実

田村麻呂呂退治譚から見た鬼の変遷 坂上 杏野

夕霧ものにおける展開と派生 田 測 陽 子

——夕霧像の多様性を中心として——

西鶴の描く女性像

——お夏・お七を中心に——

『懷硯』「案内しつてむかしの寝所」における結末の改変

都の錦作「軽口はなし」試論 中井 香里

『女殺油地獄』主人公河内屋与兵衛の人物像について 小枝 史佳

初代瀬川菊之丞の芸風 山本 将司

——役者評判記に即して—— 三田 真理子

定九郎の演技・演出 伊藤 衣舞

「累」像の変容について 山田 麻未

——怨念の発露をもとに——

下座音楽から見る歌舞伎 西 阪 絢 香

近世随筆にみえる狐 櫻井 結衣

『近世民間異聞怪談集成』における怪異の分類

落語と漱石 大川 慧

——自身の作品への投影をめぐって——

黒幕による舞台演出 片桐 章吾

尾崎紅葉『猿枕』の解釈 小池 さやか

大堀 優

奥野 春菜

国木田独歩「源おち」論

——詩的世界と現実視点からとらえた小民像——

武藤 路子

泉鏡花「春昼」「春昼後刻」試論

森 川 萌

——自筆年譜を手掛かりに——

松本 匡由

明治大正期の谷崎潤一郎作品における女性の変遷

後藤 和幸

——「眼」の変遷を中心に——

「母を恋ふる記」に見る「私」の記憶の保存

中橋 美佳

シヤクと中島敦

——聞き手の誕生と、中島敦の生涯——

「アグニの神」論

堀 文 奈

——「妖婆」との比較を通して芥川の童話を探る——

岡野 敬介

生き物から見る『冥途』

宮沢賢治が『注文の多い料理店』において試みたこと

東 元 治 樹

「夢遊病者の死」試論

武 田 直 大

永井荷風「やどり蟹」

——唯人物を能く看ること——

北 井 達 也

「第七官界彷徨」

——交錯するモダン、〈模倣〉の行方——

古 田 真 理 恵

流転する生命

——井伏鱒二「川」——

「風立ちぬ」

——死の内化への物語——

夢野久作「何んでも無い」論

——男性によって作り出される職業婦人像——

「畜犬談」試論

「駆け込み訴へ」論

——ユダの愛憎に隠された太宰の葛藤——

「花のワルツ」論

——当時の日本の舞踊界との関わりを踏まえて——

織田作之助が目指した「虚構」の大阪

——「夫婦善哉」を通して——

織田作之助「競馬」論

山下 誓

「^{レイシツ}雨の木」を聴く女たち」前後で見る大江健三郎

山内若菜

——〈受動〉から〈能動〉への反転——

「^{レイシツ}雨の木」を聴く女たち」前後で見る大江健三郎

山内若菜

「海と夕焼」論

野原隆之介

——小説方法論と短篇小説——

三島由紀夫『剣』考

岩村 芙美佳

——壬生という存在——

遠藤周作『海と毒薬』

藤井 浩平

——日本の汎神論的精神風土とキリスト教の接合点——

主人公久女から見る「船場狂い」の特徴

吉川 慧一

『第四間氷期』における革命

久野 智香

安部公房『カンガルー・ノート』論

立田 明広

花田清輝『群猿図』における俳諧の要素

服部 知昭

松谷みよ子「龍の子太郎」における民話の再創造

加藤 大生

宇野浩二の後期作品における創作性

竹内 栄梨

——芭蕉の取り入れ方を中心に——

松田 望

中期・後期作品からみる庄野潤三文学

橋本 大志

『青い』幻想——

金力 嘉宏

村上春樹『アフターダーク』における「東京」という都市の役割

木村 健吾

村上春樹『アフターダーク』における「東京」という都市の役割

加納 頌子

坂東真砂子『くちぬい』に見る歪みの連鎖

清水 優

水村美苗『母の遺産』論

武田 梓甫

——初出と初版本の本文異同を中心に——

『古事記』における死の表記

山田 紗也子

——「崩」の訓についての試論——

延慶本『平家物語』における敬語表現

宗田 涼

「る・らる」「給ふ」について

藤原 知樹

龍谷大学大宮図書館蔵本『太平記』巻一・巻二における漢字

三村 大輝

近世文語の係り結び

小林 奈央

——本居宣長を中心に——

島田 薫

「思い+動詞」型の複合動詞の変遷について

島田 薫

古典作品におけるサ変動詞「す」と助詞の共起傾向

瀧川 諒

『和英語林集成』と『日葡辞書』の例文の意味の比較

築瀬 章太

志賀直哉作品における副詞用字について

岡田 佳奈

泉鏡花と芥川龍之介の作品における火のコロケーション

堀 美紗

計量分析による山田詠美短編小説の語彙の調査

川嶋 萌子

恋愛小説における人称代名詞の使用について

中谷 美咲

『婦人公論』における国名を含む雑誌記事の語彙調査

岡村 英美

雑誌における接尾辞「ばい」の上接語の変遷

小川 愛美

類義語「多い」「たくさん」「いっぱい」の使い分け

金子 将大

雨の移動を表す「落ちる」と「降る」の違い

西郷 隼人

オノマトペ「ふわふわ」の意味用法における通時的研究

高橋 堅

(笑)の表記変遷と多様化

宮井 明日香

高等学校教科書の指示詞の特徴について

三島 奈々

日本人の名前における音韻的特徴

中川 れな

水及び茶の広告における語彙の調査

北村 衿子

アカデミー作品賞受賞作品における字幕と吹き替えの比較

足立 浩佑

熊本県熊本市北区植木町方言における文末詞「ケン」「バイ」「タイ」使用の世代差について

阪本 南

新聞の見出しにおける敬称について

和田 耕治

「氏」「さん」を中心に――

親族名称における虚構的用法の日韓対照研究

藤岡 義大

――対称詞の観点から――

日韓最新歌謡曲における語彙比較

武藤 真里奈

アクセントと拍による合唱曲・J・POPの比較

「Jポップ」の「アイドル」と「アーティスト」による歌詞の差異

水田 慎太郎

「Jポップ」の「アイドル」と「アーティスト」による歌詞の差異

スト」による歌詞の差異

東本 宜也

ブログにおける「〜(さ)せていただく」の使用実態と考察

井上 みなみ

医療現場における方言使用

雪田 恵子